

**久留米広域連携中枢都市圏**  
**平成30年度 ビジョン懇談会 都市機能・生活関連機能サービス分科会**  
**議事録**

- (1) 日 時：平成30年11月20日（火）14：00～15：10
- (2) 場 所：久留米シティプラザ 5階 大会議室
- (3) 出 席：＜ビジョン懇談会「都市機能・生活関連機能サービス分科会」委員＞  
新井真実委員、島由親委員、吉岡マサヨ委員、猿渡知子委員、中山克彦委員、  
有馬彰博委員、浦里果委員  
＜事務局＞  
吉田秀一広域行政・シティプロモーション担当部長、  
（広域行政推進課）土居美佳課長、山下泰利主査、竹下佳奈主任主事、猪口徹  
＜ワーキンググループ職員＞
- (4) 欠 席：＜ビジョン懇談会「都市機能・生活関連機能サービス分科会」委員＞  
船津將義委員、亀崎元治委員、高木亜希子委員、大浦克司委員
- (5) 次第及び議事：

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

**1. 開会**

事務局土居より挨拶。本日の会議の趣旨、進め方等について説明。  
以下、議長は規定により 新井真実 分科会会長。

**2. 内容**

**(1) ビジョン懇談会の活性化について**

- 現在の懇談会は委員の数も多く、会議の趣旨である委員の皆様のご意見を十分にお聞きするという事が出来ていない。委員の皆様を訪問させていただき、会議の進め方についてご意見を伺った中で、重要なテーマについて少人数で議論を深められるような“小分科会”を設置してはどうかというような提案をいただいた。この設置案について、あるいは議論すべきテーマ、開催時期などについて、委員の皆様のご意見をお伺いしたい。
- テーマを絞って小分科会を設置した場合、これまでの全体会や分科会で議論してきた内容から洩れるものも出てくるのではないかと。
- 全体会を行うので、その際に全分野を対象にご意見をお聞きする。
- 小分科会は、現在の分科会を更に分けて設置するのか？
- 現在の分科会の枠組みにとらわれず、全体の委員の皆様をテーマ別に振り分けていくイメージで考えている。
- ということは、現在の2つの分科会は無くなるという事か？
- 無くなるという事ではなく、小分科会を開催していく中で、必要に応じて現在の分科会開催を検討するという形を考えている。
- 小分科会の設置には賛成だが、あまり数が多くなると、テーマによっては議論の深まりがなくなるのではないかと。いくつぐらいの小分科会を想定しているのか。
- 小分科会の数は、多くても4から6程度と考えている。

○ビジョン全体の大きな分野、現在の2つの分科会の分野がある中で、小分科会のくくり方が難しいと思う。いっそ、行政が現在やられているワーキングの中に、専門領域の委員が入っていくというのはどうか。小分科会を開くと、全体会のためにその取り纏めも必要になる。小分科会の設置というやり方がいいのか、そういうやり方がいいのか、整理が必要。

●堅苦しい会議ではなく、委員の皆様が自由に意見を出せるような会議にするにはどうしたら良いかという事を考えていた。確かに分野分けやテーマ分けは難しい部分である。懇談会は民間のご意見をお伺いしたいので行政をはずしているが、委員のご意見をお伺いして、行政が後ろから見ていたのではなく、(分野の決まった)ワーキングチームの中で一緒にやれるというのはいいかもしれないと思った。そういうやり方も含め、検討させていただければと思う。

○次期計画のための意見交換会という認識でよいのか。今の計画は大きく見直しができるのか、或いは、そんなにはさわれないけれど、個別に委員の皆さんの意見を入れられるものなのか。見直しの方向性を教えてほしい。

●今現在も、ビジョンは検証しつつ見直しを行っている。今のビジョンは32年度までなので、その見直しという意味でも皆様のご意見をいただきたい。見直しの方向性という事だが、今行っている事業がベースとはなるが、新規事業を入れる場合もある。そのような前提でご意見をお願いしたい。

○基本ベースは32年度までのビジョンであり、その中で、各委員の意見を吸い上げてもらって、最終的にはそれを行政側でまとめて、その内容をここで議論するのではないのか。その中で、行政のワーキングに我々も入って意見を言える場があったらいいのかなというのが先ほどの私の意見である。今のビジョン懇談には例えばMICE事業などの柱があるが、ベースを変えてしまうと、一から基本を変えなければいけなくなってしまう。次に新たな事をというのも有り得る話ではあるが、議論はそこだと思う。

もうひとつは、広域連携がどう結べるのかという視点。ワーキングには4市2町の職員の方が入っていると思う。そのような会議で、このビジョン懇談の委員の方が直接意見を出せば、このような会議より意見も言いやすい。行政でそれをまとめて、このような会議に全体像を出せば、より具体的な話ができるのではないかと。

○個人的には、そのような形の方が意見も出やすく、理想的なのではないかと思うが、事務局の考えは？他の委員の皆さんも、ご意見があれば。

○私の場合発言しづらいという事はないが、意見の反映となると、事務局案が出てきて専門分野からの意見は言っても、既に大筋は固まっていて大きな変更はされない。規定路線に意見を言うだけでは、あまり意味はないと思う。そういう意味で、事前に案を作る段階から意見を出せるように、ワーキングに参加するという意見には賛成である。

●ご意見ありがとうございます。全体を見るというのは難しいので、委員の皆様の専門分野でのご意見・アドバイスを、きちんといただけるようにしなければいけないと思う。今の枠組みがベースにはなるが、広域で取り組むことで圏域全体に効果のあるような事業について、論議をしていければありがたいと思う。

この分科会で出た意見を参考に、やり方を検討し、委員の皆様にお返ししたい。

## (2) 連携事業について

### ①各委員の専門分野での現状やトレンドについて

●委員の皆様が所属する団体で行われている事業、又は、専門分野での最近のトレンドなどについてお話いただきたい。今後の事業の参考にさせていただきたい。

○専門分野は移住促進。私がいるところの現状だが、移住促進の動きが近隣に比較して遅れていて、地域おこし協力隊就任後、一から始めた。今、空き家を借りた移住体験事業に取り組んでいる。昨年は関東、関西から4組の方に移住体験をしてもらったが、まだ、移住実績には結びついていない。地域おこし協力隊としての任期は3年で、来年任期が来るが、何らかの形で残って活動を続けたい。

○自分の専門分野としてどれを言えばよいかわからないが、学校法人としての現状についてお話させていただく。うちだけの話ではないが、年間120万人の18歳人口の減少が今年から始まり、2040年には88万人になると言われている。うちは大学病院も持っているので、18歳人口だけでなく高齢者も含めた人口減少の問題として捉えないといけない。どういう形で組織を変えていくべきか中長期の構想を描かせている。連携型プラットフォームの形成に取り組み、産官学金労言が連携してどうやってこの社会を乗り切るかという事を考えていかないといけない。この広域連携中枢都市圏というのは、そういう中での中長期の将来構想につながるものと考えている。

○私のところでは、複数の市町村がまとまって何かの事業をする際に、県としてお手伝いしているが、筑後田園という12市町村が連携した取組について紹介させていただく。

外国人観光客はキャナルや太宰府天満宮までは行くが、筑後にはなかなか来てくれない。そこで、台湾と香港のインフルエンサーを筑後地域の観光地に招聘し、ソーシャルメディアによる情報発信に取り組んだ。また、最近脚光を浴びている糸島の事例だが、海辺は観光客も多いのに比べ、山間部は寂れている。そこで、中村学園大学と連携し、大学のサークルによる“食”を活かした耕作放棄地活用に取り組んでいる。

複数の市町で共通の課題に取り組むのは大事だが、必ずしも全ての市町にメリットがあるとは限らない。お付き合いで無理やり連携というのではなく、取り組み内容に応じて参加したりしなかったりと、自由な連携が出来る形も考える必要があると思う。

○シルバー人材センターでは就労を通じた高齢者の生きがい作りということに取り組んでいる。町からのいろいろな要請に答えながら会員さんの就業の場作りをやっているが、その中で、夏休みの子どもたちの居場所作りを頼まれた関係で、子育て支援分野の委員としてこの懇談会に参加することになった。ただ、実際の専門分野として興味を持っているのは、これからの高齢者の就業の場作り。他市町の会員もそうだが、平均年齢は70歳を超えている。国は会員100万人を目指せと言っているが、高齢者の生活は多様化が進んでおり会員登録は伸び悩んでいる状況。

大木町では農業関係の依頼が多く、以前は後継者不足によるものが多かったが、最近は新規就農に関するものも多い。新規就農による移住促進などの部分で広域での取り組みに貢献できる場所があるかもしれない。一方で、人材育成や使える施設の事などを考えると、町単独の取り組みには限界がある。特に、職員の福利厚生で、久留米の広域勤労者福祉サービスセンターを使えるのはありがたい。一つの町では出来ないことが広域だと出来る。広域的取り組みのメリットは大きいと思う。

○ファミリー・サポート・センター事業を行政から受託してやっている。大川市が独自に開始されたので、現在はうきは市、大木町、大刀洗町と連携して会員登録と子どものお預かりをやっているが、久留米市の会員が圧倒的に多い状況。会員数が少ないと、うまく回せずお断りする場合もある。利用助成を、久留米市の場合は一人親と非課税世帯に半額助成してくれるが、他の市町はそれが導入されていない。利用者は近隣に頼る人がいない一人親などが多いので、助成をぜひお

願いたいと思っている。市町によって子育て支援のサービス内容が異なるが、その狭間的なところが当センターに求められている。最近では企業の福利厚生として助成されるところも増えてきたが、“お願い会員”に比べて“見守り会員”の数が少ないのが課題となっている。

○最近の医療現場では、医師の働き方改革が大きな問題となっている。全国の労働基準監督署が病院に指導に入り、当院でも厳しい指導、是正勧告を受けた。例えば、医師の当直は認められず、通常勤務プラス時間外で対応したため、時間外の管理が難しくなっている。体制を組み直し、一部、外来縮小などの対応を行ったが、まだまだ医師の負担軽減は十分ではなく、医療体制をどこまで維持できるかが非常に問題となっている。当院に広域小児救急センターを設置し、久留米大学の先生や地域の先生たちと協力し運営しているが、現在、午後7時から午後11時までとなっている運営時間を朝までに拡大していただけないか、久留米市をはじめとする関係者に相談しているところ。

人材不足も大きな問題となっている。病院では、給食部門の調理師や介護部門の介護福祉士を、退職補充のために募集してもなかなか集まらない。シルバー人材センターにも相談したが、会員の96%は何らかの仕事をしていて、手が余っているという状況ではないとの事。募集を、年齢不問ではなく60歳以上とすると集まりやすいという話も聞いた。外国人労働者の採用も検討している。人材確保は圏域にとっても大きな課題ではないかと思う。

○それぞれのご意見をお伺いしたが、相互の意見交換に移りたい。何かご意見があれば。

○今話を聞いて、シルバー人材センターとの横連携が出来ていないのではないかと感じた。縦割りではなく横串を入れるような形でこの広域連携をやらないといけない。調理部門や介護部門の人材不足の話にしる、子育て支援にしる、広域連携の議論の中で、横串で高齢者の活用という部分も出てくるのではないか。広域連携をやっていくという基本路線に即して、そういう議論をやっていくのがいいのかなと思う。

○シルバー人材センターが法人格を持っているために行政と連携しにくい部分もあるが、人の供給をお互いでやっていければいいのではないかと思う。これからの高齢者は自分の居住する市や町に限定して働きたいということはないと思う。シルバー人材センター自身が変わっていかないといけない。

○シルバー人材センターも活用しつつ、人材を確保していければと思う。センターが、請負業務だけでなく、派遣業務など幅広くやってあることを初めて知った。業務内容を広く周知できれば、会員も増えてくるのではないか。

○日々一生懸命やっているつもりだが、PRの仕方などが問題なのか、届いていないなと感じた。若い人を通じたPR、行政の後押しなどが必要だと思う。

○外国人のブロガーやユーチューバーを招いてPRすることは、非常に宣伝効果の上がるやり方だと感じた。久留米市でも導入してはどうか。今は、テレビのCMより効果があるのではないか。いい取組だと思って聞かせていただいた。

○当然、先ほどお話した取組には久留米市にも入っていただいている、久留米では、大砲ラーメンで発信してもらった。台湾はラーメンのお好きな方が多いようで、熱心に取材されていた。また、台湾の方はFace Bookがお好きで、香港はYouTubeかInstagramというように好みのメディアも異なる。好みも、風景、食べ物など国によって色々なので、特性を見極めながら活用すると効果的だと思う。

○事務局から何かあれば。

●いろいろな意見をいただけて参考になった。皆さんがお話になった中で“雇用”や“就労”、“労働”、そういったものがキーワードと感じた。高齢化社会に対応した高齢者の方の働く場の確保、少子化による人材不足、一見相反するが、そのマッチングが課題となっていると思う。その

解決策を探っていく中で、“連携”という言葉が重要なキーワードとなる。それはまさに、我々が皆様方と一緒にやっている広域という地域間の連携、それから、今日も色々な分野の方にお集まりいただいているが、分野間の連携、そして、我々行政と民間との連携や世代間の連携であり、そういった“連携”というキーワードの中で必要なのは、それぞれの連携主体同士が理解しあうことだと思う。そのためには、話し合っていく事が大事で、そこで、冒頭ご提案申し上げたように、この会議を少しでも活性化させ、少しずついいので成功事例を見える形で積み上げていく事が大切だと思う。

## (2) 連携事業について

### ②平成 30 年度事業進捗状況及び平成 31 年度事業計画について

- 「資料 3」4 ページから 7 ページが当分科会関連の平成 30 年度事業進捗状況と平成 31 年度事業計画（案）の資料。事前送付しているので詳細な説明は省略。

【 委員からの意見・質問等 なし 】

## (3) 今後のスケジュールについて

- 「資料 4」により分科会、全体会等の今後の流れを説明。
- 補足だが、本日小分科会の設置に関し、委員の皆様からご提案のあったやり方について、明後日開くもうひとつの分科会での意見も踏まえ、改めて整理したい。

【 委員からの意見・質問等 なし 】

## 3. 閉会

- 事業を進める上でのヒントとなるようなキーワードもたくさんいただいた。本日いただいた意見を参考に、広域連携の事業に取り組んでいきたい。  
これをもって、久留米広域連携中枢都市圏平成 30 年度ビジョン懇談会都市機能・生活関連機能サービス分科会を終了します。